

第50回 県政に関する世論調査の結果について

平成27年12月25日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)
- (5) 調査時期 平成27年8月12日～8月31日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,580(52.7%)

3 調査の項目

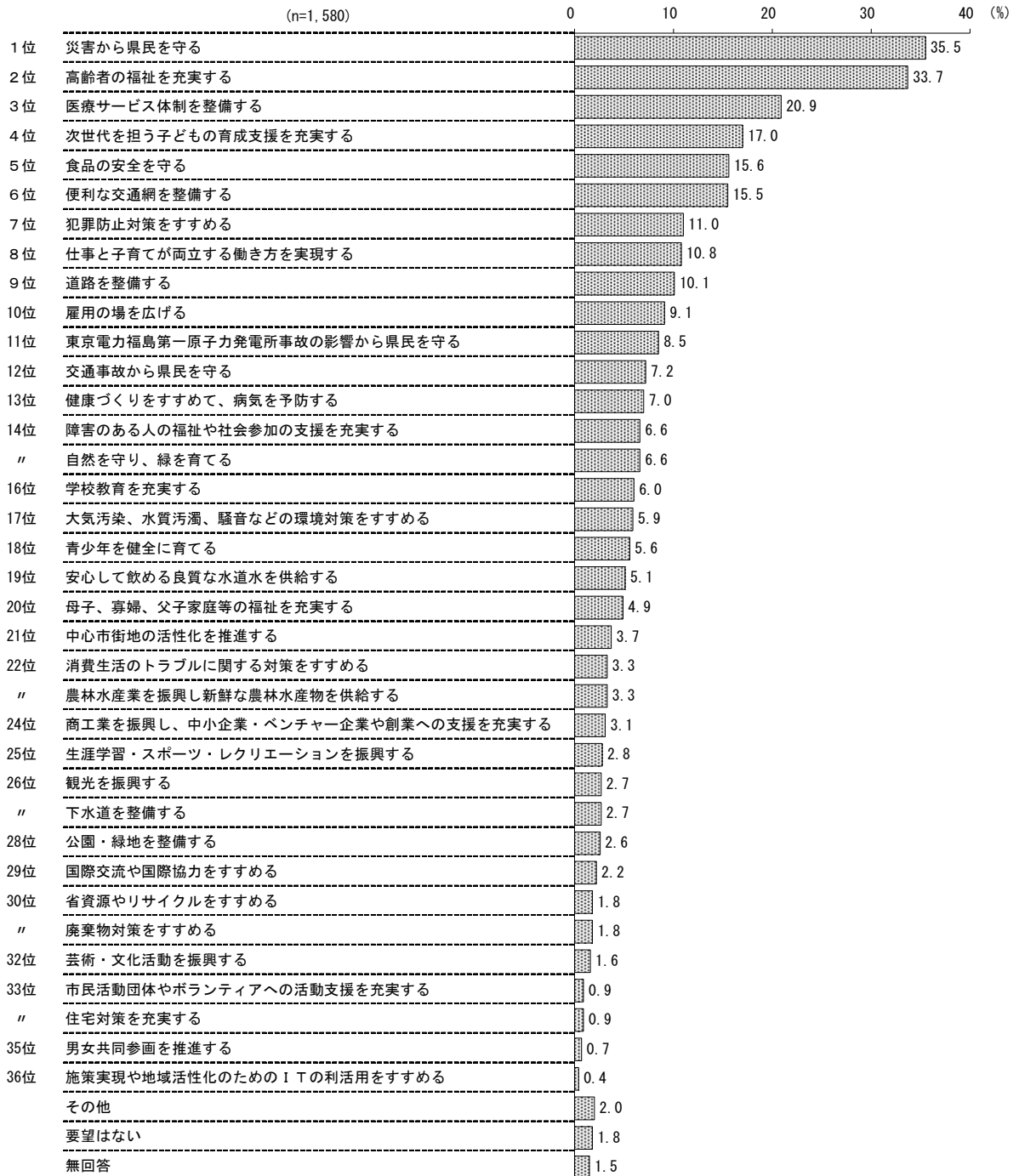
- (1) 県民意識調査
 - ①環境と生活について
 - ②健康について
 - ③福祉について
 - ④観光について
 - ⑤千葉県の農林水産物について
 - ⑥防災に関する取り組みについて
 - ⑦地方分権について
 - ⑧広報・広聴活動について
- (2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

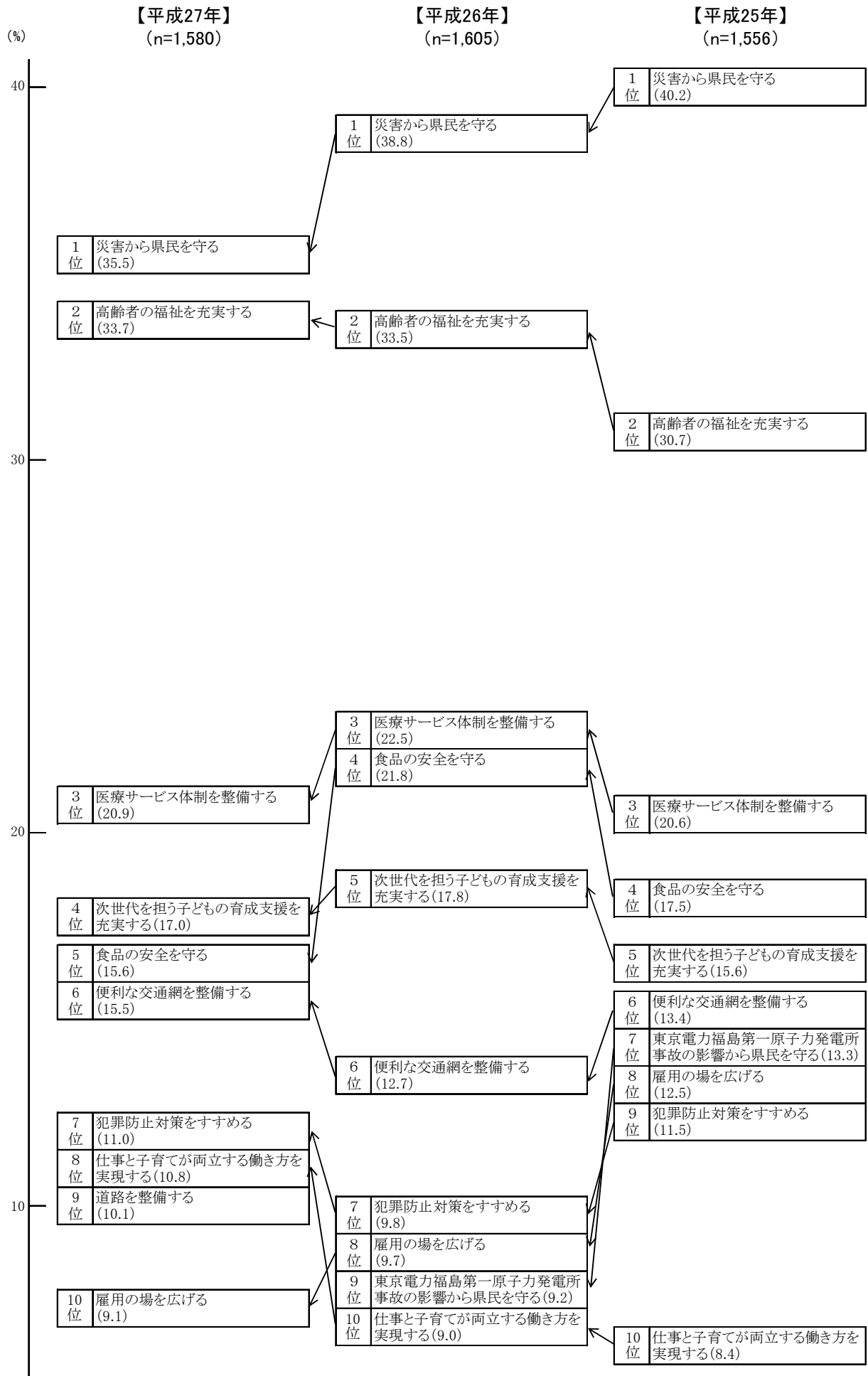
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」(35.5%)が1位で、次いで「高齢者の福祉を充実する」(33.7%)が2位、「医療サービス体制を整備する」(20.9%)が3位と、県民からの要望が特に高い。
2. 「災害から県民を守る」は、25年度(40.2%)、26年度(38.8%)に引き続き第1位(35.5%)だが、この2年で4.7ポイントの減少となっている。
3. 26年度の第4位「食品の安全を守る」(21.8%)は第5位(15.6%)に、順位を下げた。

■ 県政への要望／上位 10 項目の推移

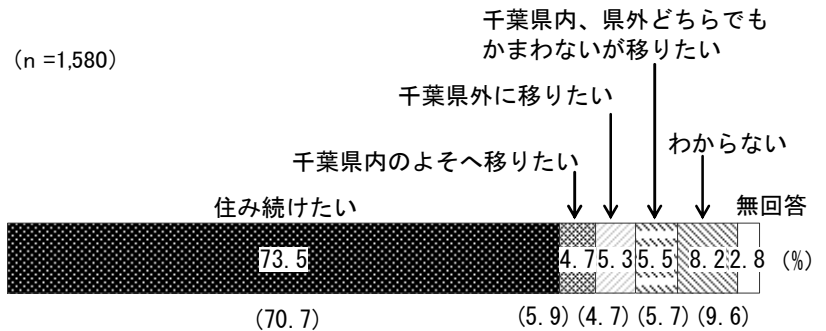


2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(73.5%)は7割台半ば、「千葉県内のよそへ移りたい」(4.7%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい』(78.2%)は約8割である。

一方、「千葉県外に移りたい」は5.3%となっている。

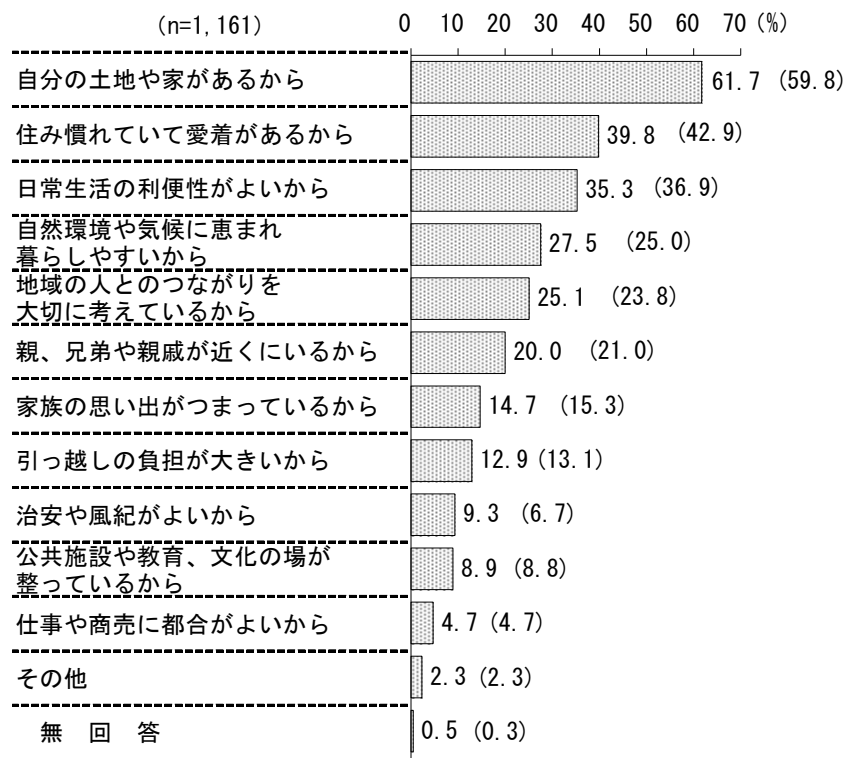


注) () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,161人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(61.7%)が6割を超えて最も多く、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(39.8%)、「日常生活の利便性がよいから」(35.3%)が続く。

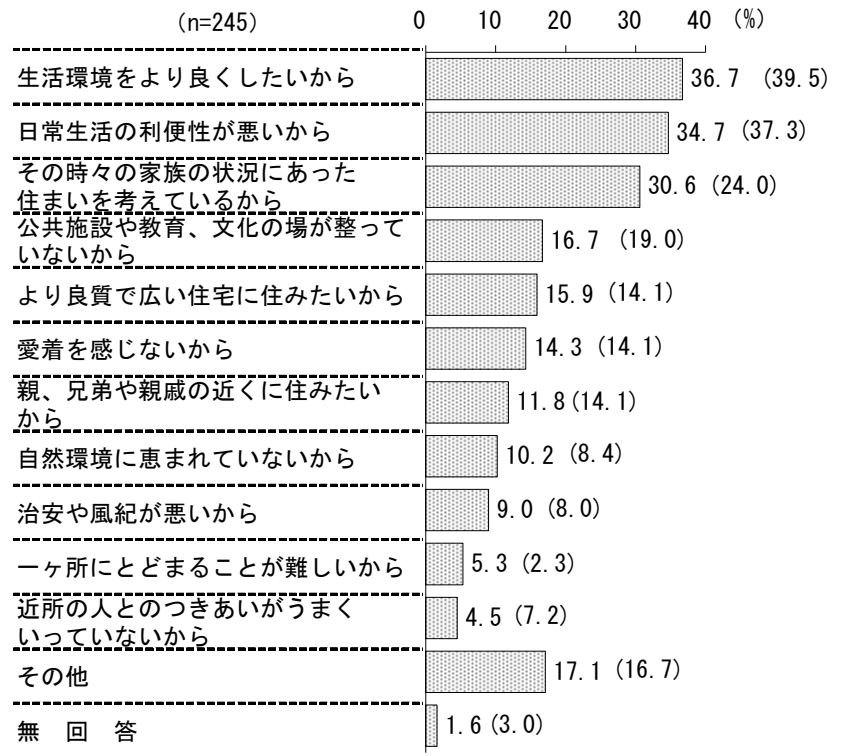


注) () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

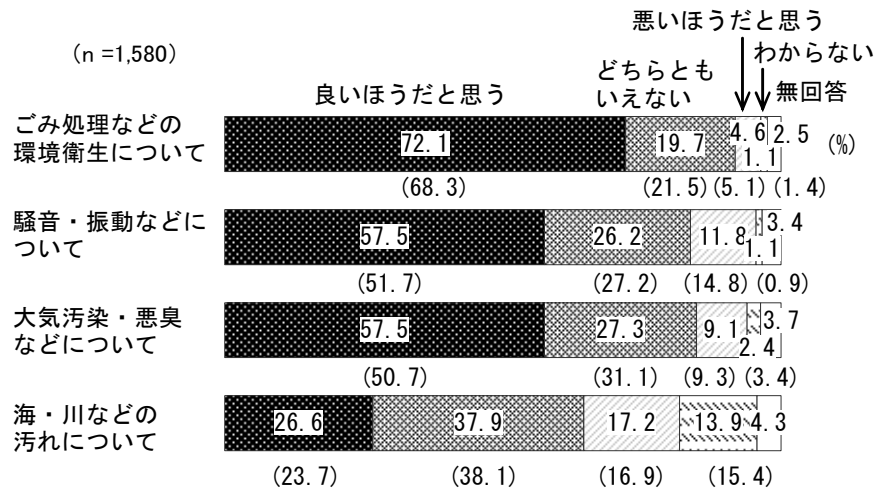
「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した245人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(36.7%)が3割台半ばと最も高く、以下、「日常生活の利便性が悪いから」(34.7%)、「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(30.6%)が続く。



注) () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(2) 生活環境について

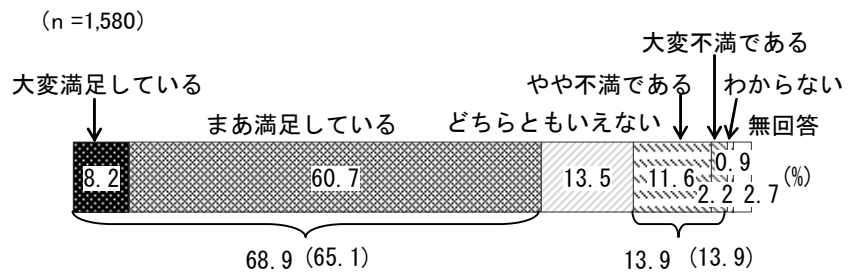
生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、「ごみ処理などの環境衛生について」(72.1%)で7割を超え、以下「騒音・振動などについて」(57.5%)、「大気汚染・悪臭などについて」(57.5%)が約6割となっている。一方、「海・川などの汚れについて」は、「良いほうだと思う」(26.6%)と「悪いほうだと思う」(17.2%)の差がわずかとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

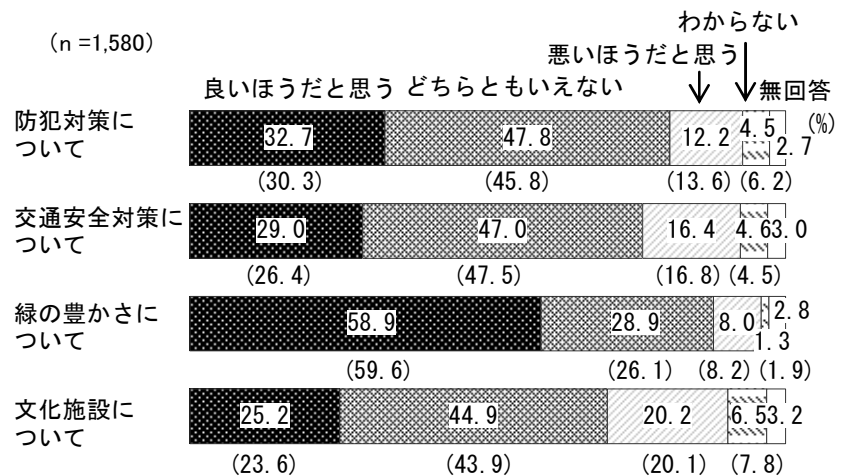
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(8.2%)と「まあ満足している」(60.7%)を合わせた『満足している』(68.9%)は約7割となっている。一方、「やや不満である」(11.6%)と「大変不満である」(2.2%)を合わせた『不満である』(13.9%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(4) 周辺・自然環境について

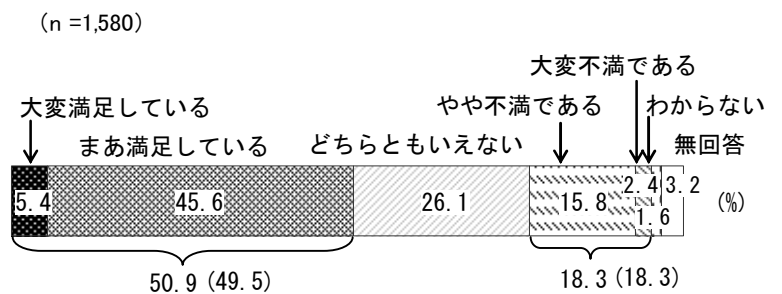
周辺・自然環境に関する4つの項目についてそれぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは〈緑の豊かさについて〉(58.9%)が約6割となっており、以下、〈防犯対策について〉(32.7%)、〈交通安全対策について〉(29.0%)が続いている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(5) 周辺・自然環境全般の満足度

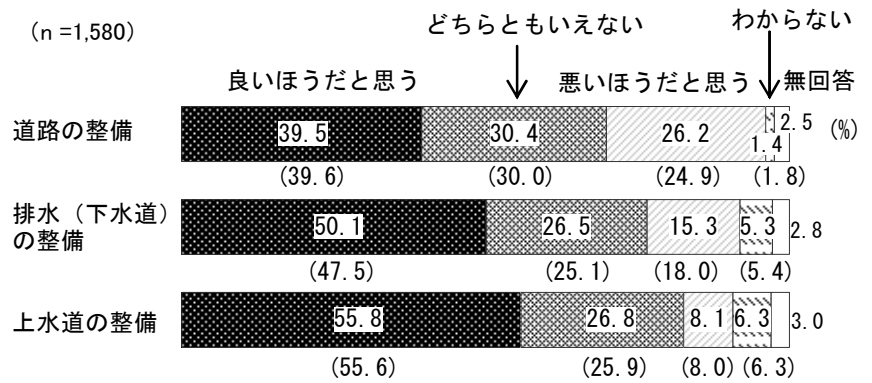
周辺・自然環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(5.4%)と「まあ満足している」(45.6%)を合わせた『満足している』(50.9%)は5割となっている。一方、「やや不満である」(15.8%)と「大変不満である」(2.4%)を合わせた『不満である』(18.2%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(6) 基盤整備について

基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈上水道の整備〉(55.8%)で5割台半ばとなっている。次いで、〈排水(下水道)の整備〉(50.1%)が5割、〈道路の整備〉(39.5%)が約4割となっている。

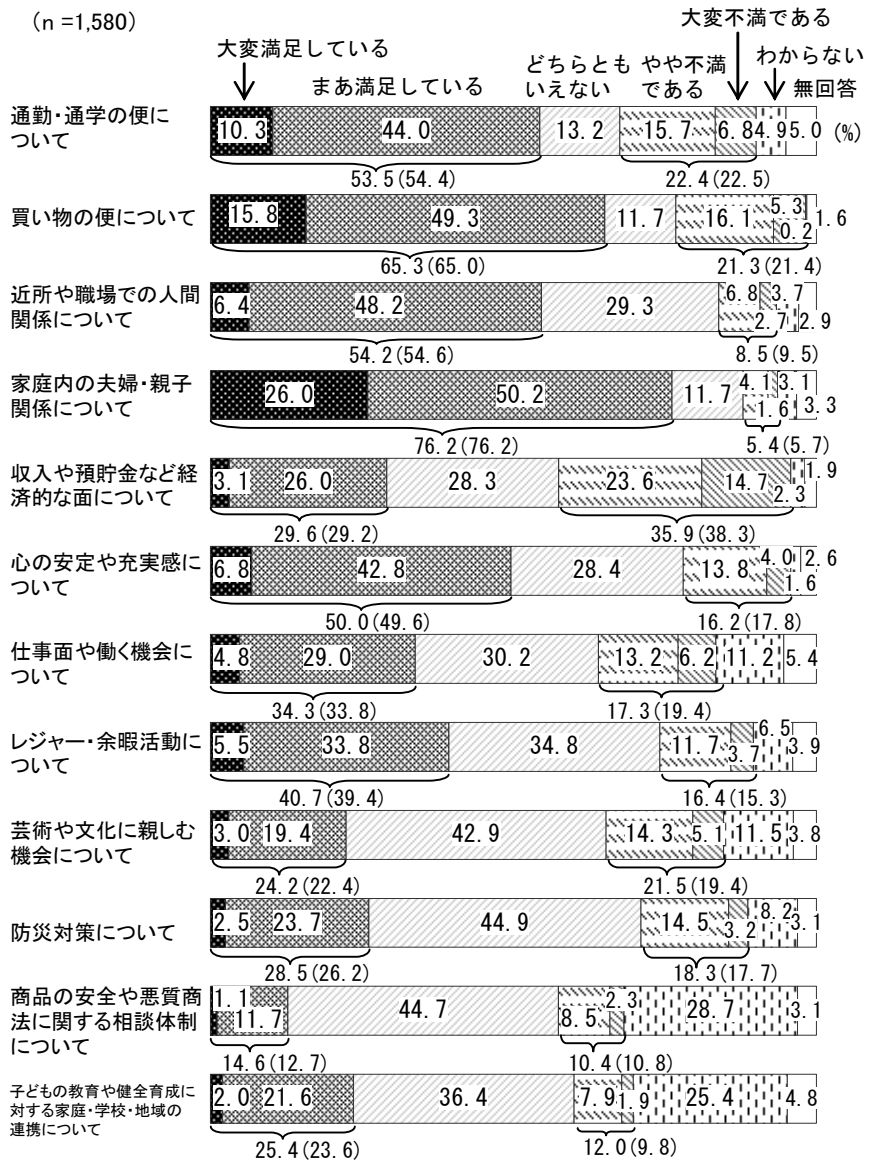


注) 下段の()書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(7) 現在の生活の満足度

現在の生活に関する12個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、〈家庭内の夫婦・親子関係について〉(76.2%)が7割台半ばとなっている。以下、〈買い物の便について〉(65.3%)、〈近所や職場での人間関係について〉(54.2%)、〈通勤・通学の便について〉(53.5%)と続く。

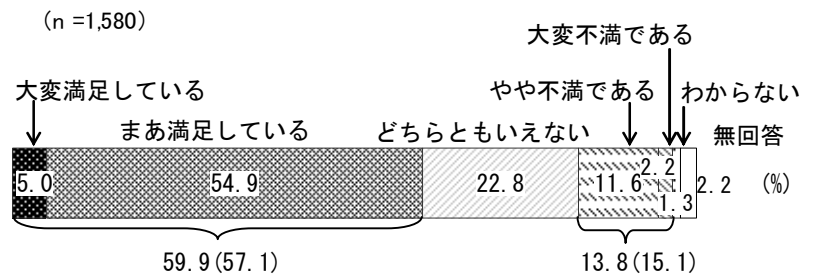
一方、「やや不満である」と「大変不満である」を合わせた『不満である』の割合は、〈収入や預貯金など経済的な面について〉(35.9%)が3割台半ばとなっており、12個の項目でこの〈収入や預貯金など経済的な面について〉のみ、『不満である』が『満足している』を上回っている。



注) 下段の()書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(8) 住生活全般の満足度

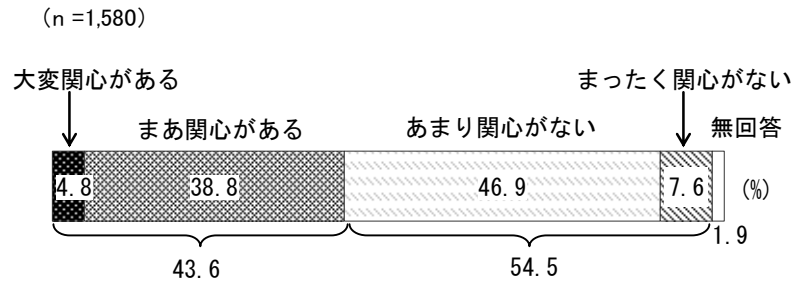
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（5.0%）と「まあ満足している」（54.9%）を合わせた『満足している』（59.9%）は約6割となっている。一方、「やや不満である」（11.6%）と「大変不満である」（2.2%）を合わせた『不満である』（13.8%）は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

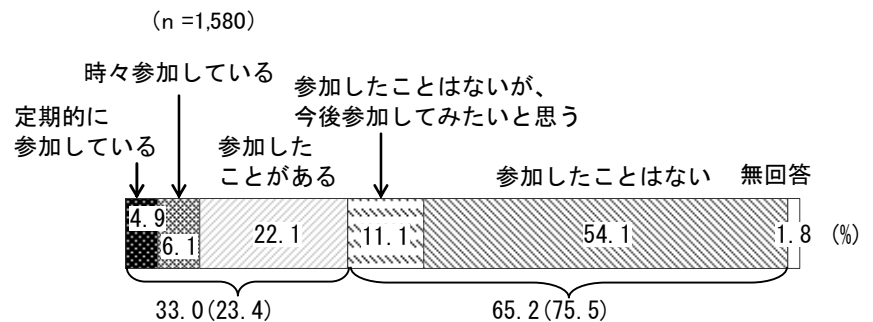
(9) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体やボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」（4.8%）、「まあ関心がある」（38.8%）となっており、2つを合わせた『関心がある』（43.6%）は4割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」（46.9%）、「まったく関心がない」（7.6%）を合わせた『関心がない』（54.5%）は5割台半ばとなっており、『関心がない』割合が『関心がある』を上回っている。



(10) 市民活動団体の活動への参加経験

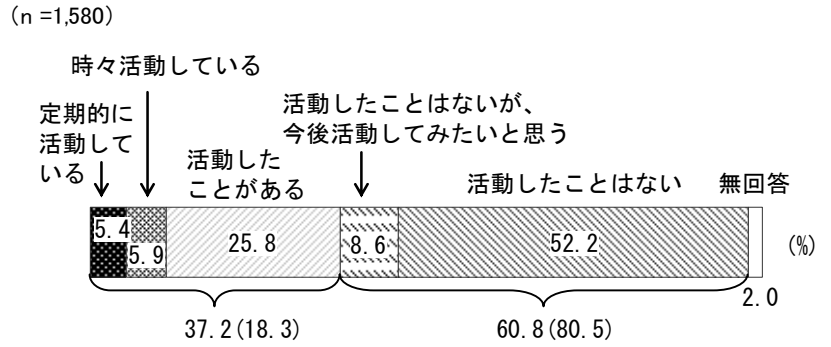
市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（4.9%）と「時々参加している」（6.1%）、「参加したことがある」（22.1%）の3つを合わせた『参加している』（33.0%）は3割台半ばとなっている。過去の調査結果と比較すると『参加している』割合は大きく上昇した。一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（11.1%）は1割を超え、「参加したことはない」（54.1%）は5割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(11) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるかを聞いたところ、「定期的に活動している」(5.4%)、「時々活動している」(5.9%)、「活動したことがある」(25.8%)を合わせた『活動したことがある』(37.2%)は約4割となっている。一方、「活動したことはない」(52.2%)は5割を超えている。

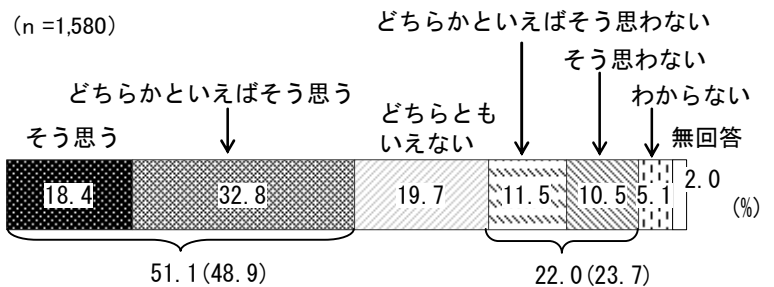


注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

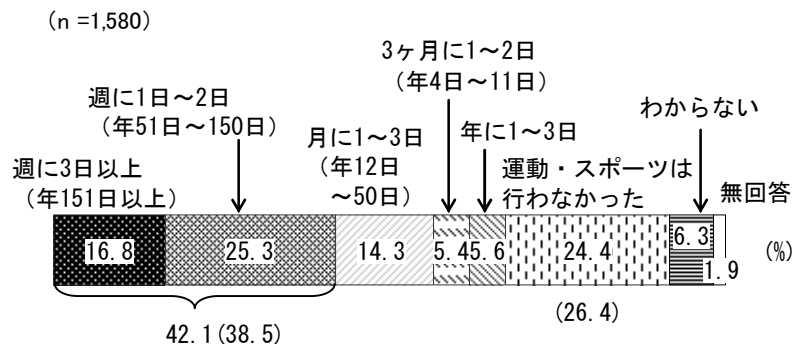
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(18.4%)と「どちらかといえばそう思う」(32.8%)を合わせた『そう思う』(51.1%)は5割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.5%)と「そう思わない」(10.5%)を合わせた『そう思わない』(22.0%)は2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(2) 健康づくりのための運動

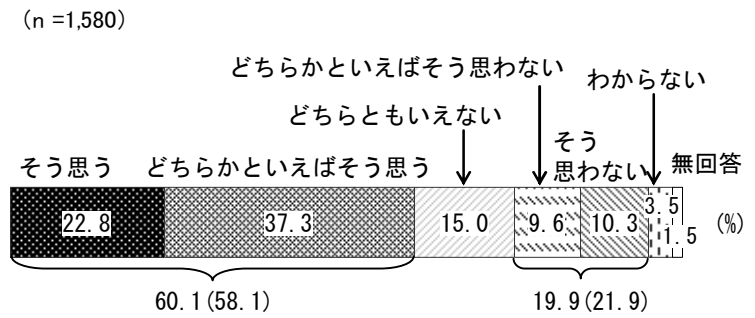
健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったかを聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(16.8%)、「週に1日~2日(年51日~150日)」(25.3%)を合わせた『健康づくりのために週1日以上運動した』(42.1%)は4割を超えている。一方、「運動・スポーツは行わなかった」(24.4%)は2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(3) 安心して受診できる医療体制

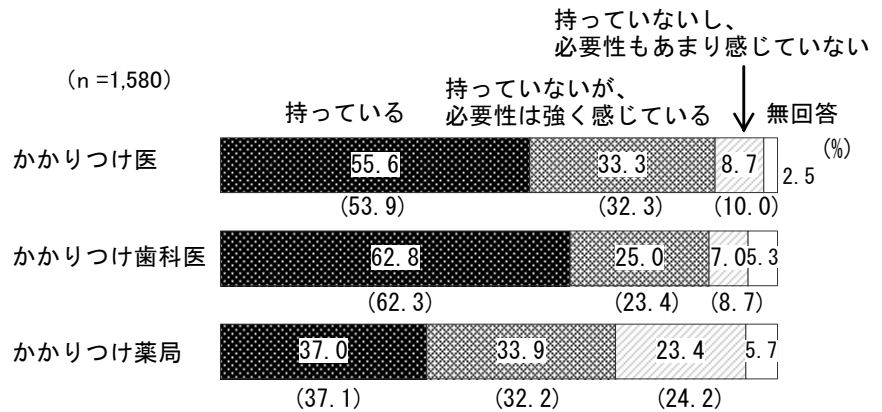
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(22.8%)と「どちらかといえばそう思う」(37.3%)を合わせた『そう思う』(60.1%)は6割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.6%)と「そう思わない」(10.3%)を合わせた『そう思わない』(19.9%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(4) かかりつけ医の有無

かかりつけの医師、歯科医師、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は歯科医師(62.8%)が6割を超え、医師(55.6%)は5割台半ば、薬局(37.0%)は約4割となっている。「持っていないが、必要性は強く感じている」は薬局(33.9%)、医師(33.3%)とが3割を超えている。一方、「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は薬局(23.4%)が2割台半ばとなっている。

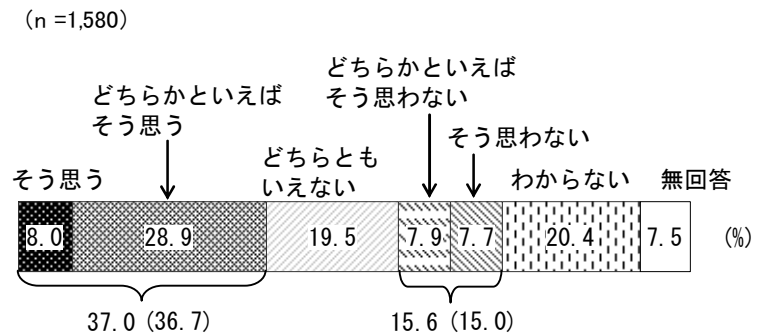


注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

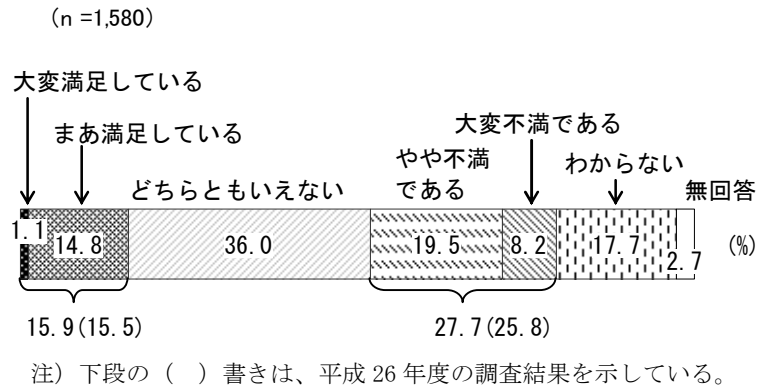
自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(8.0%)と「どちらかといえばそう思う」(28.9%)を合わせた『そう思う』(37.0%)は約4割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.9%)と「そう思わない」(7.7%)を合わせた『そう思わない』(15.6%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

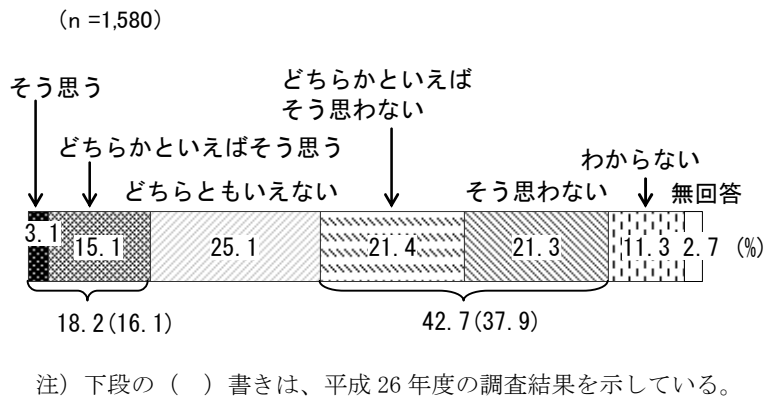
(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策について

お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についてどう感じているか聞いたところ、「大変満足している」(1.1%)と「まあ満足している」(14.8%)を合わせた『満足している』(15.9%)が1割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(19.5%)と「大変不満である」(8.2%)を合わせた『不満である』(27.7%)は約3割となっている。



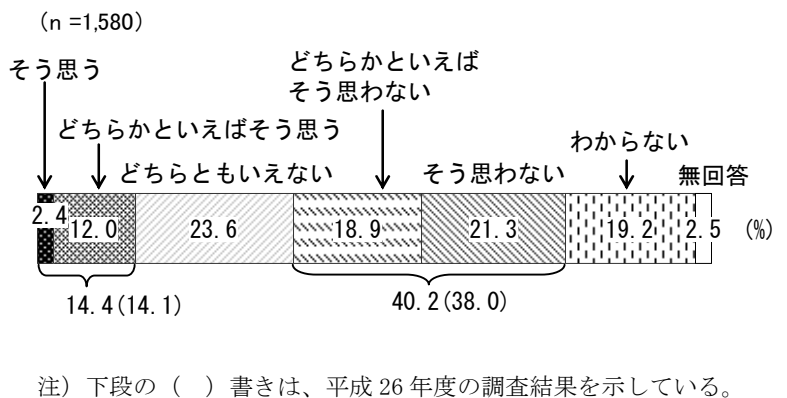
(3) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.1%)と「どちらかといえばそう思う」(15.1%)を合わせた『そう思う』(18.2%)は約2割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(21.4%)と「そう思わない」(21.3%)を合わせた『そう思わない』(42.7%)は4割を超えている。



(4) 障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくりについて

障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(2.4%)と「どちらかといえばそう思う」(12.0%)を合わせた『そう思う』(14.4%)は1割台半ばとなっており、「どちらかといえばそう思わない」(18.9%)と「そう思わない」(21.3%)を合わせた『そう思わない』(40.2%)は4割となっている。

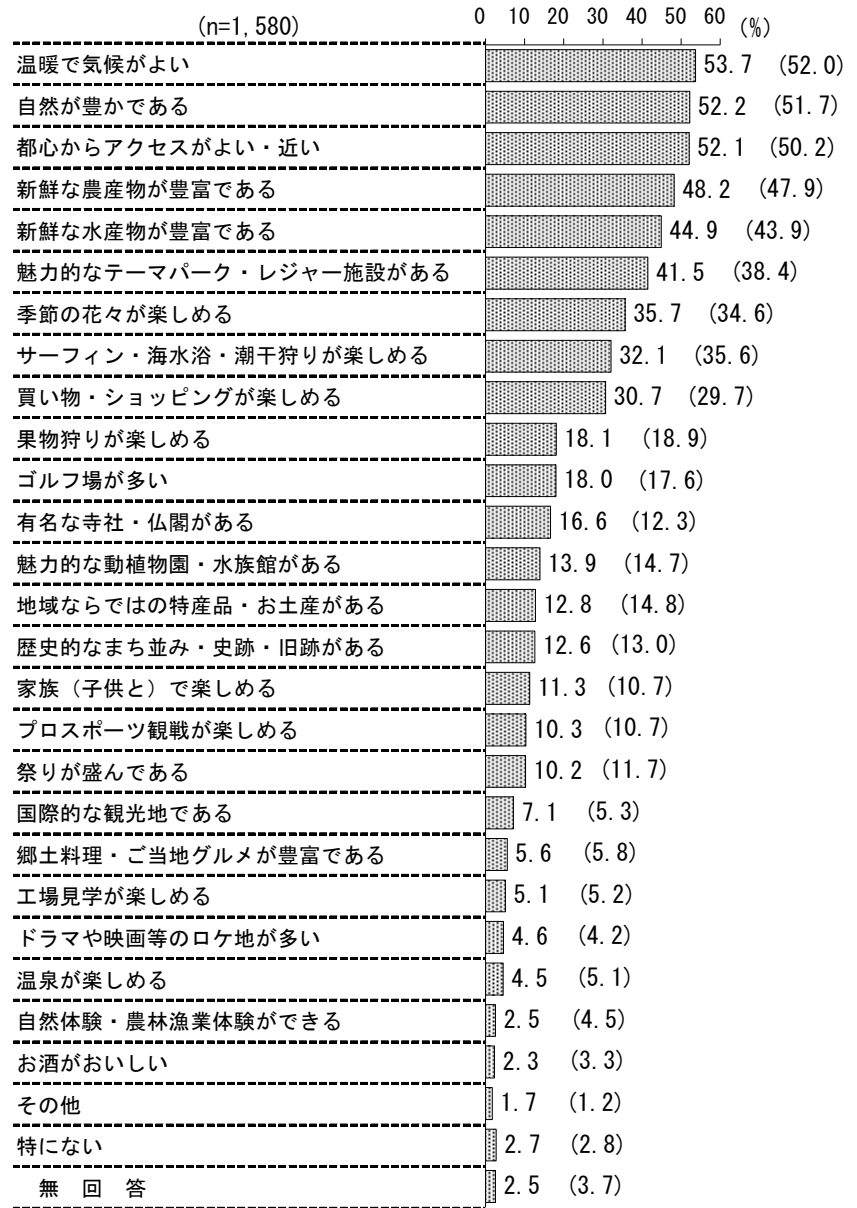


5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答：いくつでも)

千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(53.7%)が5割台半ばと最も高くなっている。以下、「自然が豊かである」(52.2%)、「都心からアクセスがよい・近い」(52.1%)、「新鮮な農産物が豊富である」(48.2%)、「新鮮な水産物が豊富である」(44.9%)、「魅力的なテーマパーク・レジャー施設がある」(41.5%)、「季節の花々が楽しめる」(35.7%)、「サーフィン・海水浴・潮干狩りが楽しめる」(32.1%)、「買い物・ショッピングが楽しめる」(30.7%)、「果物狩りが楽しめる」(18.1%)、「ゴルフ場が多い」(18.0%)、「有名な寺社・仏閣がある」(16.6%)、「魅力的な動植物園・水族館がある」(13.9%)、「地域ならではの特産品・お土産がある」(12.8%)、「歴史的なまち並み・史跡・旧跡がある」(12.6%)、「家族(子供と)で楽しめる」(11.3%)、「プロスポーツ観戦が楽しめる」(10.3%)、「祭りが盛んである」(10.2%)、「国際的な観光地である」(7.1%)、「郷土料理・ご当地グルメが豊富である」(5.6%)、「工場見学が楽しめる」(5.1%)、「ドラマや映画等のロケ地が多い」(4.6%)、「温泉が楽しめる」(4.5%)、「自然体験・農林漁業体験ができる」(2.5%)、「お酒がおいしい」(2.3%)、「その他」(1.7%)、「特にない」(2.7%)、「無回答」(2.5%)が続く。

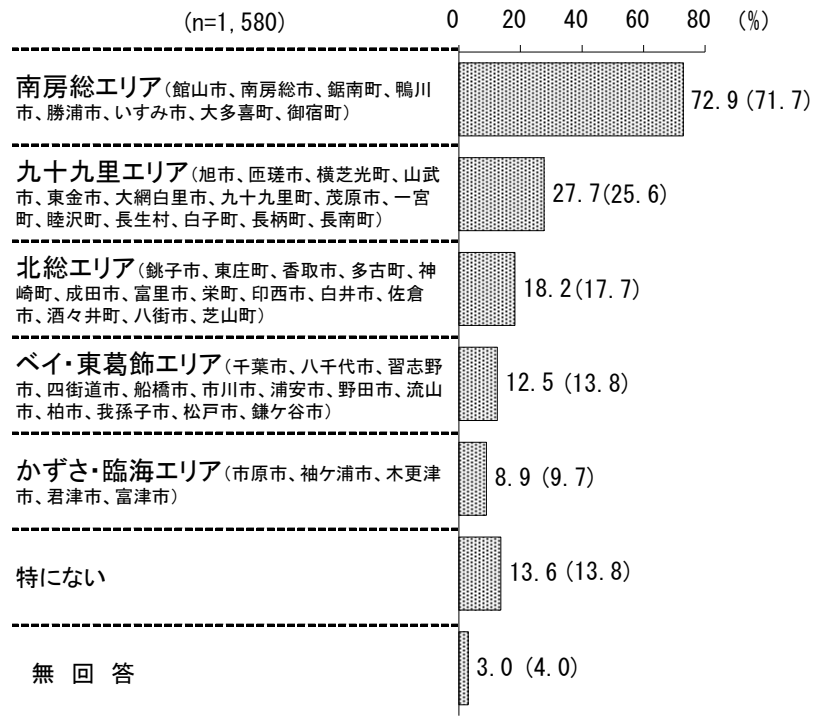


注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答：いくつでも)

県内で旅行に行きたいエリアはどこか聞いたところ、「南房総エリア」(72.9%)が7割を超えて最も高くなっている。以下、「九十九里エリア」(27.7%)、「北総エリア」(18.2%)、「ベイ・東葛飾エリア」(12.5%)、「かずさ・臨海エリア」(8.9%)が続く。

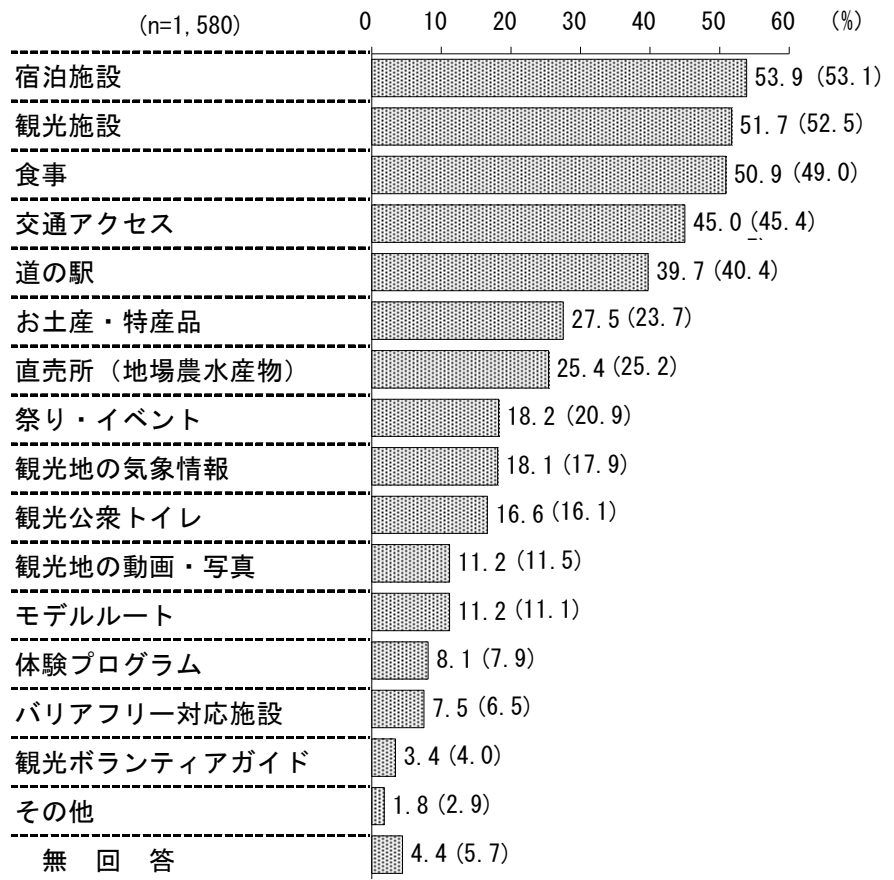


注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「宿泊施設」(53.9%)が5割台半ばで最も高くなっている。以下、「観光施設」(51.7%)、「食事」(50.9%)、「交通アクセス」(45.0%)、「道の駅」(39.7%)が続く。

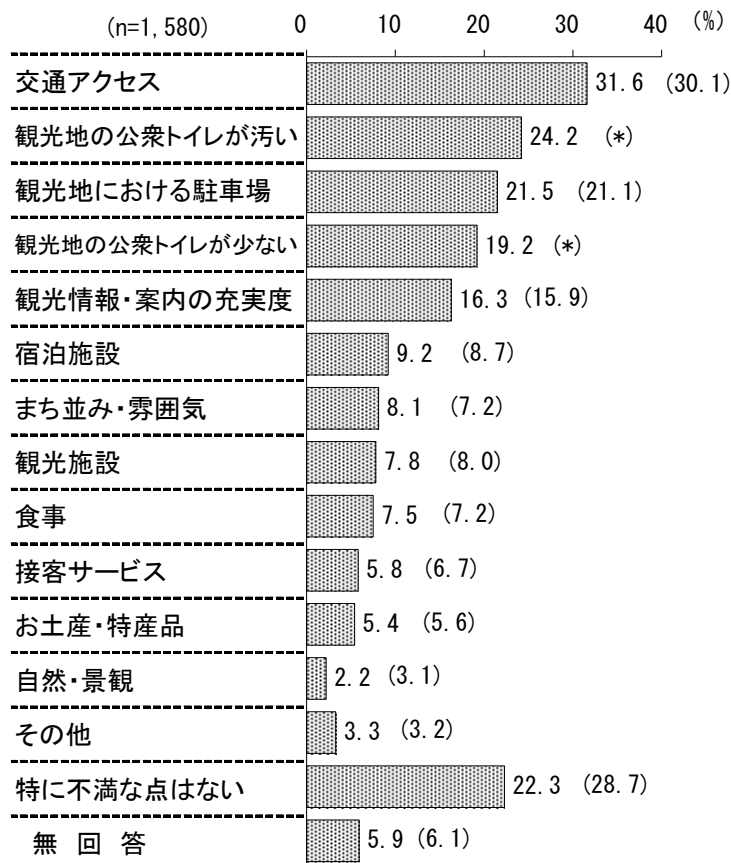


注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(4) 県内を観光するときの不満

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に不満に感じることを聞いたところ、「交通アクセス」(31.6%)が3割を超えて最も高くなっている。以下、「観光地の公衆トイレが汚い」(24.2%)、「観光地における駐車場」(21.5%)、「観光地の公衆トイレが少ない」(19.2%)が続く。



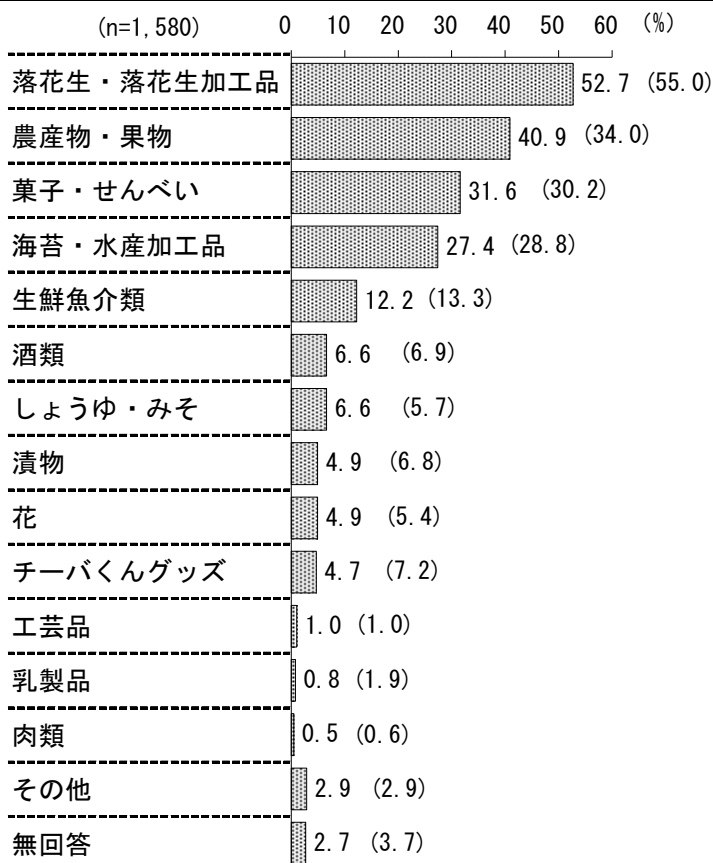
注1) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

注2) (*) は平成26年度「観光地における公衆トイレ」より選択肢分割のため非表示。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答：3つまで)

県産品をお土産や贈答品として使うものを3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(52.7%)が5割を超えて最も高くなっている。以下、「農産物・果物」(40.9%)、「菓子・せんべい」(31.6%)、「海苔・水産加工品」(27.4%)が続く。

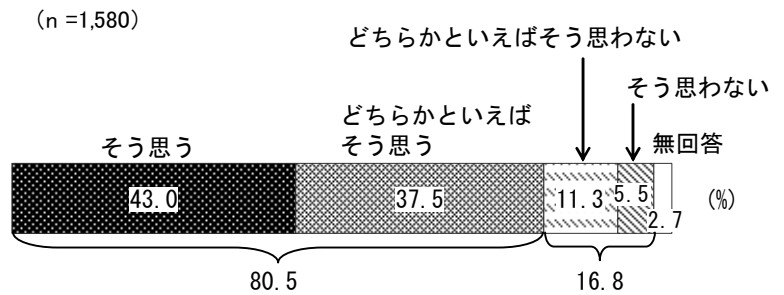


注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

6 千葉県の農林水産物について

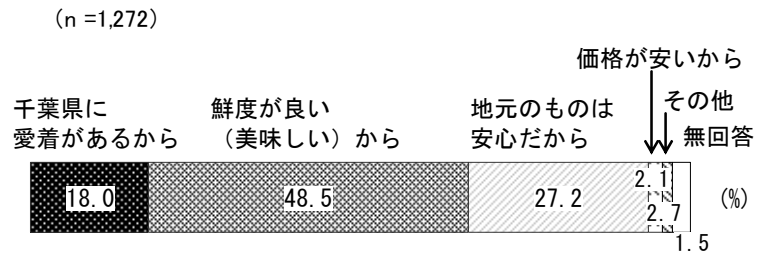
(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(43.0%)が4割台半ば、「どちらかといえばそう思う」(37.5%)は約4割であり、これらを合わせた『そう思う』(80.5%)は8割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.3%)と「そう思わない」(5.5%)を合わせた『そう思わない』(16.8%)は1割台半ばとなっている。



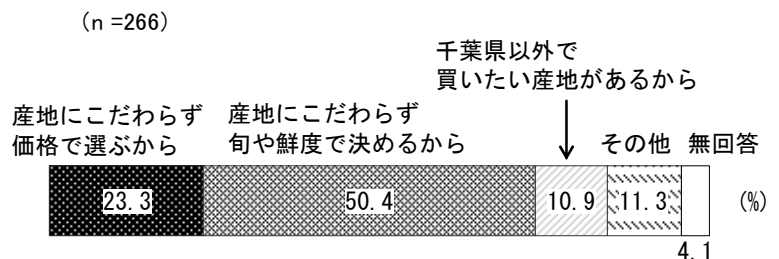
(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

千葉県産の農林水産物を購入したいと思う人の主な理由としては、「鮮度が良い(美味しい)から」(48.5%)が約5割と最も高い。以下、「地元のもの安心だから」(27.2%)、「千葉県に愛着があるから」(18.0%)となっている。



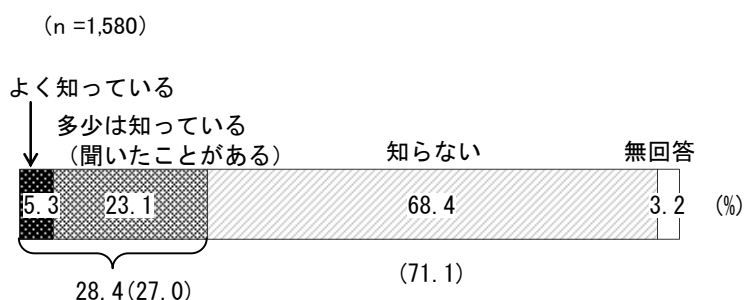
(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産の農林水産物を購入したいと思わない人の主な理由としては、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(50.4%)が5割と最も高い。以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(23.3%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(10.9%)となっている。



(2) 「ちばエコ農産物」の認知度

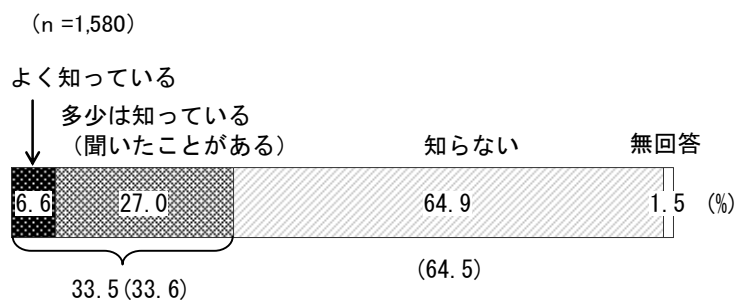
「ちばエコ農産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(5.3%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(23.1%)を合わせた『知っている』(28.4%)は約3割となっている。一方、「知らない」(68.4%)は約7割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(6.6%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(27.0%)を合わせた『知っている』(33.5%)は3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(64.9%)は6割台半ばとなっている。

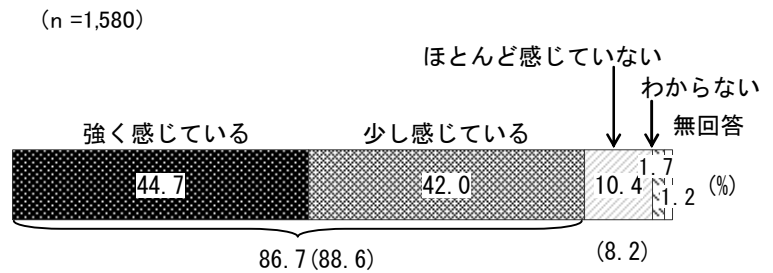


注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

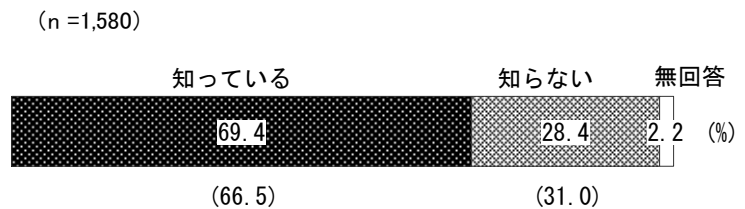
大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(44.7%)と「少し感じている」(42.0%)を合わせた『感じている』(86.7%)は8割台半ばとなっている。一方、「ほとんど感じていない」(10.4%)は1割である。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

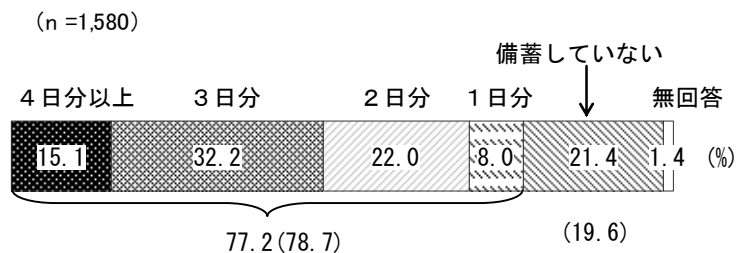
「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(69.4%)が約7割となっている。一方、「知らない」(28.4%)は約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料の備蓄状況

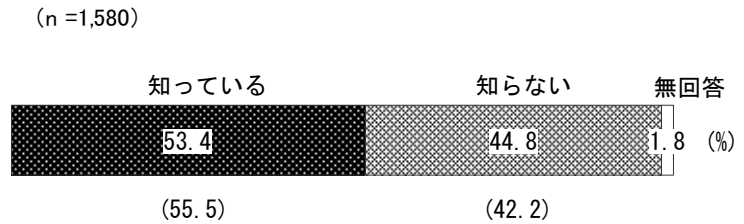
飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(32.2%)が3割を超え、「2日分」(22.0%)が2割を超え、「4日分以上」(15.1%)が1割台半ば、「1日分」(8.0%)が約1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している』(77.2%)は約8割となっている。「備蓄していない」(21.4%)は2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(53.4%)は5割台半ばとなっている。一方、「知らない」(44.8%)は4割台半ばとなっている。

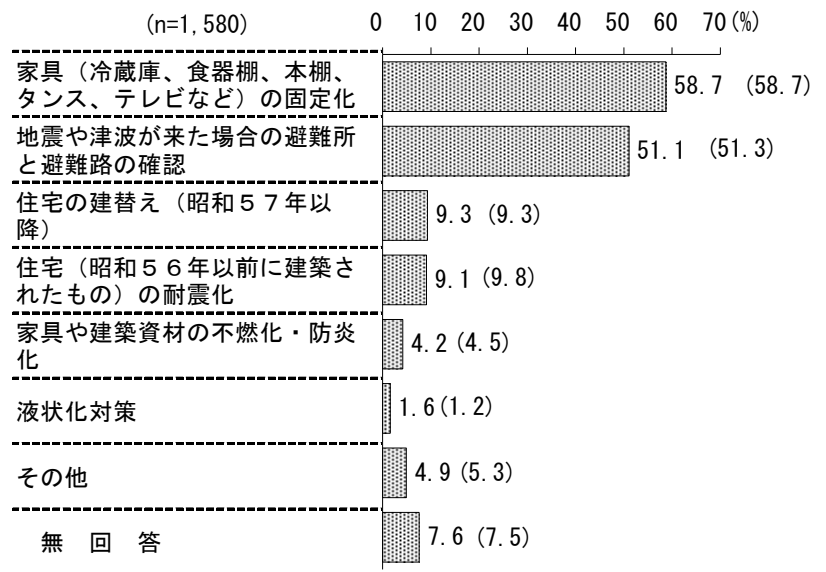


注) 下段の () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答：いくつでも)

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(58.7%)が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」(51.1%)が5割を超え、「住宅の建替え(昭和57年以降)」(9.3%)、「住宅(昭和56年以前に建築されたもの)の耐震化」(9.1%)が約1割となっている。

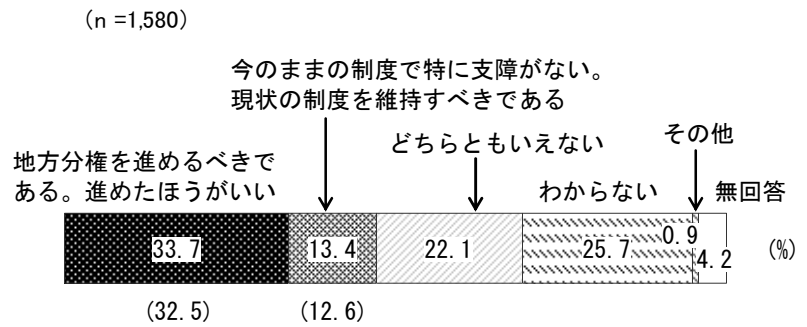


注) () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

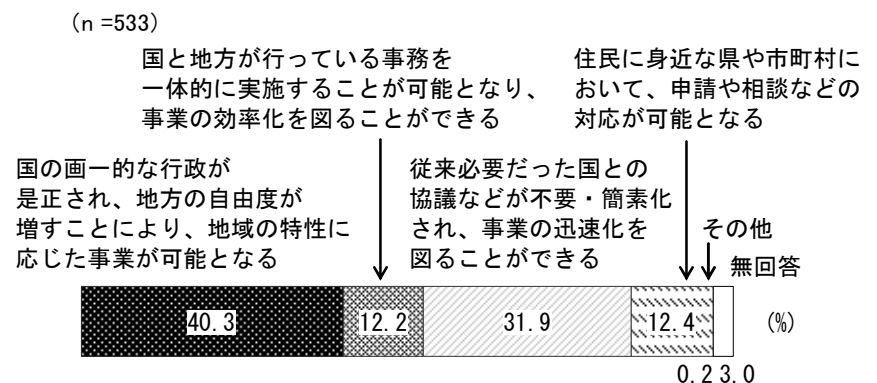
(1) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

地方分権を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権を進めるべきである。進めたほうがいい」(33.7%)は3割台半ばとなっており、「今のままの制度で特に支障がない。現状の制度を維持すべきである」(13.4%)は1割台半ばとなっている。一方、「わからない」(25.7%)は2割台半ば、「どちらともいえない」(22.1%)が2割を超えている。



(1-1) 「地方分権」で期待する主な効果

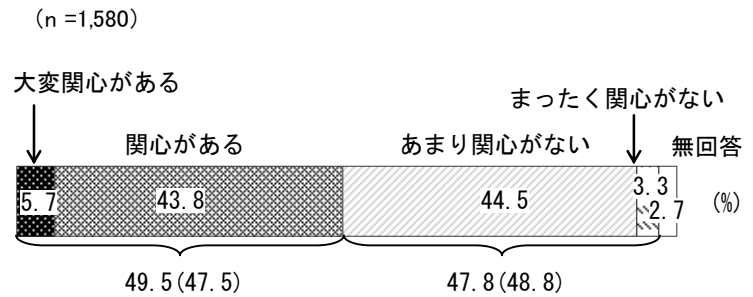
「地方分権を進めるべきである。進めた方がいい」と回答した人が、地方分権に期待する主な効果として「国の画一的な行政が是正され、地方の自由度が増すことにより、地域の特性に応じた事業が可能となる」(40.3%)が4割と最も多く、次いで「従来必要だった国との協議などが不要・簡素化され、事業の迅速化を図ることができる」(31.9%)が3割を超え、以下「住民に身近な県や市町村において、申請や相談などの対応が可能となる」(12.4%)、「国と地方が行っている事務を一体的に実施することが可能となり、事業の効率化を図ることができる」(12.2%)となっている。



9 広報・広聴活動について

(1) 県の施策や政策などについての関心度

県の施策や政策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(5.7%)と「関心がある」(43.8%)を合わせた『関心がある』(49.5%)は約5割となっている。一方、「あまり関心がない」(44.5%)と「まったく関心がない」(3.3%)を合わせた『関心がない』(47.8%)も約5割となっている。

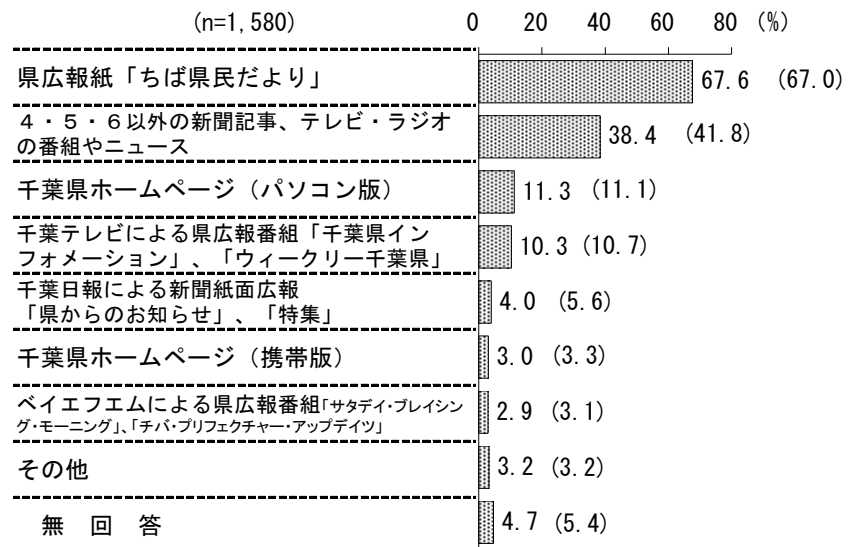


注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(67.6%)が約7割で最も高く、以下、「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(38.4%)、「千葉県ホームページ(パソコン版)」(11.3%)、「千葉県テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」(10.3%)と続いている。

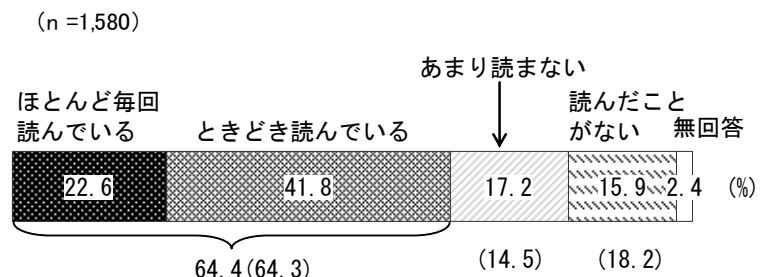


(※) 「4・5・6以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、4・5・6とは、『千葉県日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」』、『千葉県テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」、「ウィークリー千葉県」』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタデー・プレイング・モーニング」、「チバ・プリフェクチャー・アップデイツ」』を指す。

注) () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

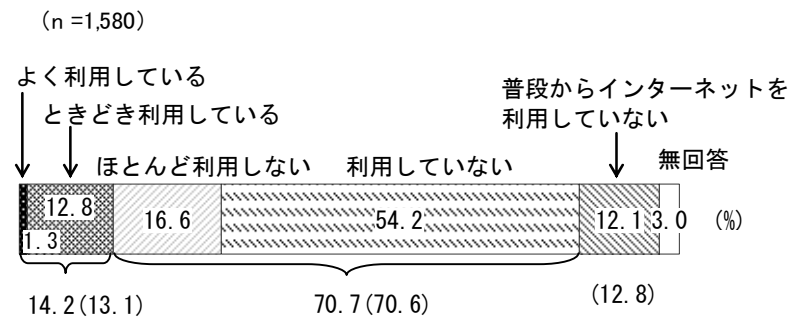
県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(22.6%)は2割を超え、「ときどき読んでいる」(41.8%)は4割を超え、これらを合わせた『読んでいる』(64.4%)は6割台半ばとなっている。一方、「あまり読まない」(17.2%)は約2割、「読んだことがない」(15.9%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

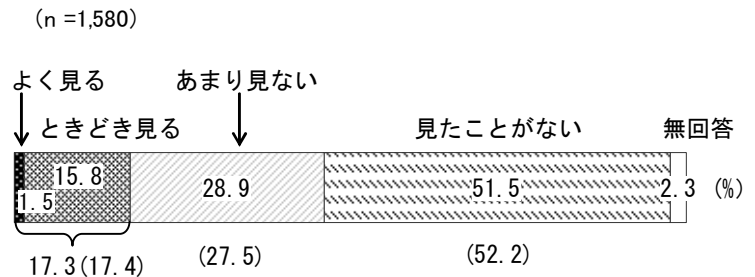
千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(1.3%)と「ときどき利用している」(12.8%)を合わせた『利用している』(14.2%)は1割台半ばとなっている。一方、「ほとんど利用しない」(16.6%)と「利用していない」(54.2%)を合わせた『利用していない』(70.7%)は7割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報番組の視聴状況

県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.5%)と「ときどき見る」(15.8%)を合わせた『見る』(17.3%)は約2割となっている。一方、「あまり見ない」(28.9%)は約3割で、「見たことがない」(51.5%)は5割を超えている。

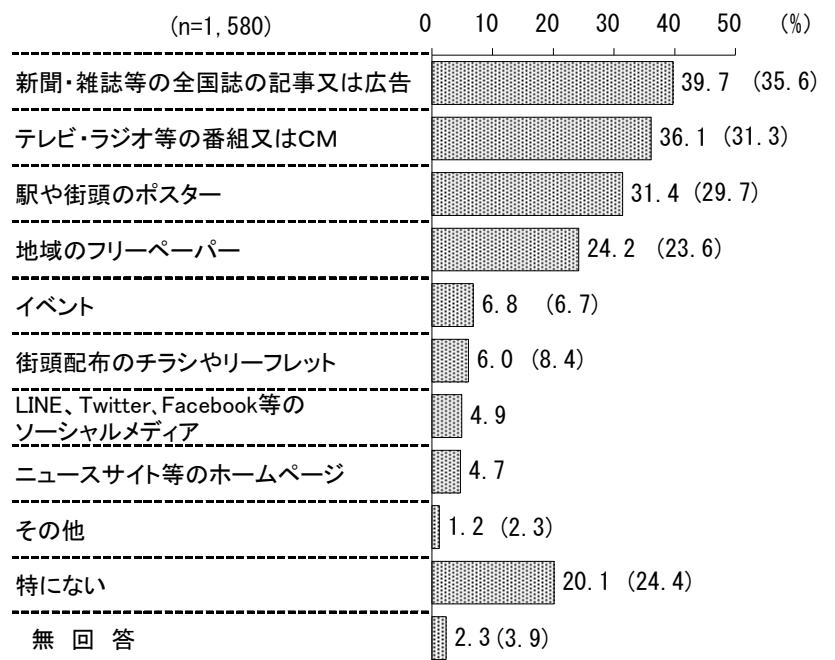


注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(6) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

(複数回答: いくつでも)

県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況を聞いたところ、「新聞・雑誌等の全国誌の記事又は広告」(39.7%)が約4割と最も高くなっており、以下、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(36.1%)、「駅や街頭のポスター」(31.4%)、「地域のフリーペーパー」(24.2%)が続いている。



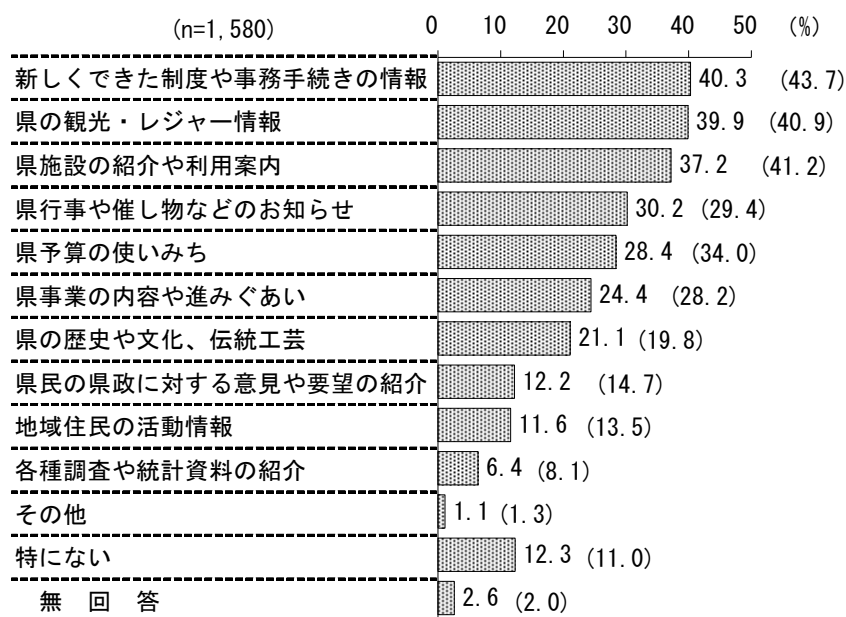
注1) () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

注2) 「LINE、Twitter、Facebook等のソーシャルメディア」、「ニュースサイト等のホームページ」は今年度から追加項目

(7) 県の知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県の知りたい情報を聞いたところ、「新しくできた制度や事務手続きの情報」(40.3%)が4割と最も高くなっている。以下、「県の観光・レジャー情報」(39.9%)、「県施設の紹介や利用案内」(37.2%)と続いている。

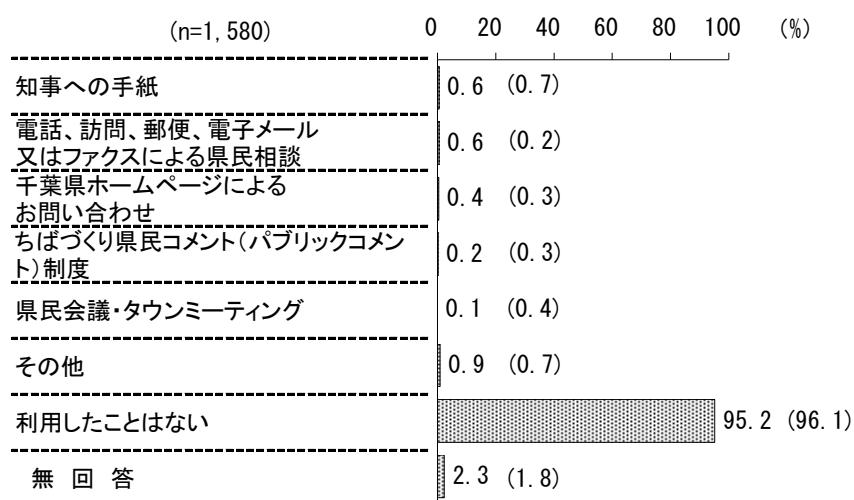


注) () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(8) 知事への手紙などで意見を述べた経験

(複数回答：いくつでも)

知事への手紙などで意見を述べた経験をいくつでも選んでもらったところ、「利用したことはない」(95.2%)が9割台半ばとなっている。利用したことのあるものでは、「知事への手紙」「電話、訪問、郵便、電子メール又はファクスによる県民相談」(同率 0.6%)となっている。

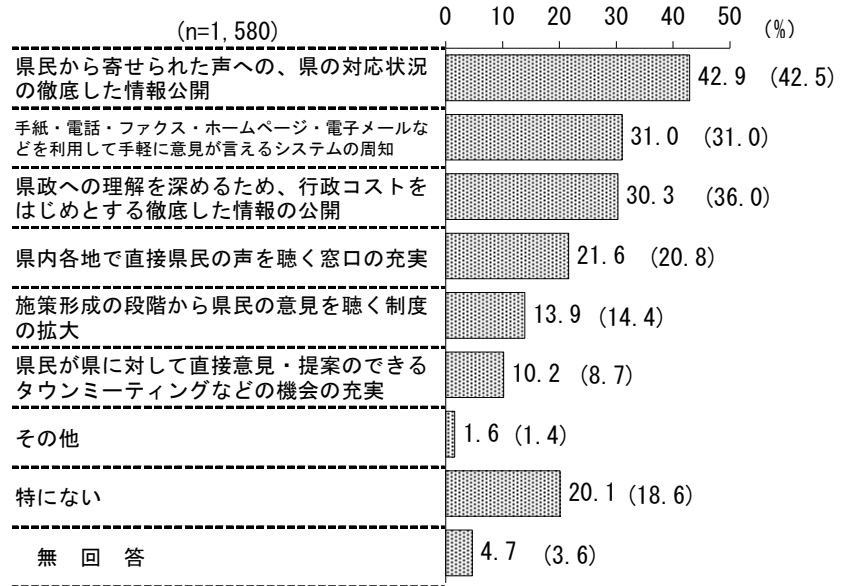


注) () 書きは、平成 26 年度の調査結果を示している。

(9) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

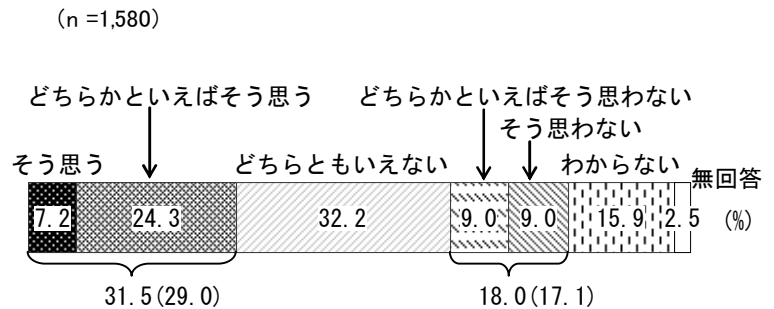
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(42.9%)が4割を超えて最も高くなっている。以下、「手紙・電話・ファクス・ホームページ・電子メールなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(31.0%)、「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(30.3%)などが続いている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

(10) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(7.2%)と「どちらかといえばそう思う」(24.3%)を合わせた『そう思う』(31.5%)は3割を超えている。一方、「そう思わない」(9.0%)と「どちらかといえばそう思わない」(9.0%)を合わせた『そう思わない』(18.0%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成26年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、349人から延べ434件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計37項目）で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○他県の者に対し、千葉を自慢できるポイントが欲しい。ディズニーとか落花生とかではなく、～が一番など。千葉県人なら～が出来るとか、～を知っていると、千葉出身者同士が将来手を組みやすい、キズナを作るべきだと思います。千葉出身であるだけで、仕事につながる事もあります。（男性、30代、葛南地域）

■道路を整備する

○子供達の通学路が車道と同じ所を歩いている。古い家や住んでいない家が道路にそっていっぱいあるのに、車道を広げて歩道を作れないかいつも思っている。（女性、60～64歳、印旛地域）

■便利な交通網を整備する

○観光、農水産物の流通ともに、道路網の整備が重要だと思います。高速道でなくて良いのでバイパス化など、スムーズに県の端々までストレスなく通行できる道路網の整備を最優先で行って欲しい。（男性、40代、海匝地域）

■高齢者福祉を充実する

○高齢者や障害者に対して、もっと手厚い福祉を望みます。各市へのその方面への教育も進めてほしい。担当者の知識が浅く、役に立たない事が多い。市によって差が大きい。（女性、50代、葛南地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○子育てがしたいと思う様な町づくり、学校の少人数制、子供たちが外で沢山遊ぶ事が出来る様に、地域の目が行き届く様にしてほしいです。お年寄りもどんどん外に出られる様な公園作り、コミュニティ作り。（女性、50代、葛南地域）

■県政情報の発信や活動のPRについて

○このように県民の意見を大切にしてほしい。時々このような世論調査を実施し、県民の考えや意見を政治に取り入れてほしい。お願いします。（女性、65歳以上、夷隅地域）

■雇用の場を広げる

○南房総の館山市に住んでいますが、とにかく就業場所が少ないです。豊かな生活を送る為にも、将来も安心した人生を送る為にも、雇用の場所を増やして下さい。よろしく願い致します。（男性、40代、安房地域）

■犯罪防止対策をすすめる

○以前から交通の便も良く住みやすい地域だったが、近年富に外国人の姿が目立ち始め、治安、風紀の悪化、トラブル等を目にする機会がかなり増えた。地域の環境悪化防止は今後の子育て、高齢化社会にとって大きな不安をのぞく最優先事項と感じている。人種差別は断固反対だが、しっかりと地域のルールとマナーを守って生活してもらえる様、指導体制等、強化されたい。（女性、50代、葛南地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、146人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- 初めてこういう形の行政に関するアンケート調査というものを体験しましたが、良いことだと思います。この結果がどう使われるのかは分かりませんが、集計結果を公表してほしいと思います。そして、どう対応していくのかも知りたいです。そうすればもっと行政に関心を持てると思います。（女性、50代、葛南地域）
- 結果だけにとらわれることなく、住民が何を望んでいるのか、どうすれば千葉県がより活性化するのか考えて頂き、それらを一人一人に役割を明確にして下されば、県民全体で取り組んでいくのではないかと思います。（男性、30代、印旛地域）
- 選択肢が多すぎて解けない感じがする。つまらない質問もある。どれだけ役に立つかも不安がある。（女性、60～64歳、東葛飾地域）
- 県と財政困難な所、私どもの調査がお役に立てば…。そして、一つでも実施できる方向を願っております。高齢者の一人として、自立は人間としての尊いこと、そして望むこと。国はその手助けを少しでもしていただけたら幸いです。（女性、65歳以上、葛南地域）
- かなりボリュームがあります。問が具体的ではなく、抽象的な印象のものもあり、困りました。（女性、40代、葛南地域）
- 良い機会を与えて頂きました。千葉県の発達を願っています。今後は千葉県便り、千葉テレビ、ホームページを活用してみたいと感じました。（女性、65歳以上、千葉地域）
- このアンケートから県行政として何ができるのかな？という疑問があります。しかし、少しでもアンケートの結果から良い県政の行動ができるなら、私達も少しでも協力して行動したいと思います。（男性、60～64歳、葛南地域）
- この種の調査は3000人といわず、もっと人数を増やし、定期的の実施されてはいかがでしょうか？（男性、65歳以上、葛南地域）